



線路とともに歩む

まちとまち、過去と未来を結ぶ



- ①大正11年開業当時の姿が残る松尾寺駅(吉坂)
- ②東舞鶴駅のホームに並ぶ「特急まいづる」と「丹後の海」(浜町)
- ③田畑の中を走る「丹後の海」(清道)
- ④由良川・道路と併走する見晴らしのいい区間(蒲江)
- ⑤観光列車として運行されている「丹後あかまつ号」(油江)
- ⑥単線のため東雲駅で行き違い列車を待つ(水間)
- ⑦先頭車両の窓は子ども達や観光客に人気の特等席(油江)

まな企画列車を運行し、新しい取り組みを展開している。鎮守府の設置とともに近代化を歩んだ遺産や自動車普及する以前の人々の移動、貨物の運搬を支えてきた歴史と、観光列車という新しい鉄道のあり方。鉄道は、まちとまち、過去と未来を結んでこれからも走り続けていく……。

現在、旧国鉄の宮津線にあたる路線で営業する京都丹後鉄道には、工業デザイナーの水戸岡鋭治氏がリニューアルを監修した車両「丹後の海」「丹後あかまつ号」「丹後くろまつ号」「丹後あおまつ号」「コミューター車両」が運行。列車内で地域の食材を使ったコース料理を提供したり、さまざま

市内の鉄道には、JR舞鶴線(真倉駅〜東舞鶴駅)とJR小浜線(東舞鶴駅〜松尾寺駅)。そして、京都丹後鉄道の宮舞線(西舞鶴駅〜丹後神崎駅)の3路線7駅がある。かつては、東舞鶴駅〜中舞鶴駅(現・中総合会館付近)を結ぶ中舞鶴線や松尾寺駅から朝来地区にあった火薬廠までのびる側線、西舞鶴駅から京都舞鶴港を結ぶ舞鶴港線なども走っていた。しかし、自動車の普及など、社会情勢の変化とともにそれらは姿を消していった。